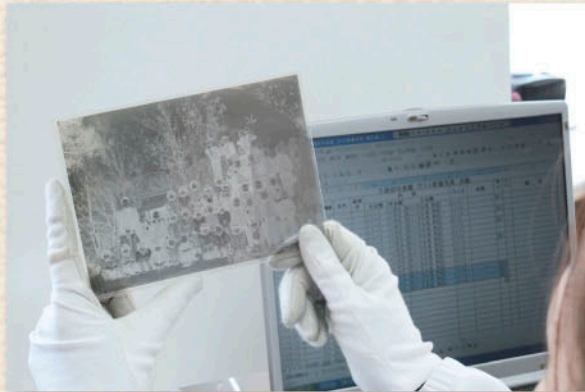




ガラス乾板写真からよみがえる 50年前の飯田・下伊那

現在、歴史研究所では昭和20年代から30年代にかけてのガラス乾板写真の整理作業を行っています。このガラス乾板写真は、戦前期から昭和50年代まで営業していた久保田写真館（飯田市松尾）が撮影したものです。久保田写真館は、昭和30年代の最盛期には数人の弟子をとり、スタジオ撮影のほか大鹿村から下伊那南部の小中学校、結婚式場、企業などの出張撮影を手掛けていました。

撮影されたガラス乾板とネガフィルムの一部は廃業後もそのままスタジオ内に残されていました。昨年10月、歴史研究所は現在県外在住の御当主より現状調査と整理を委託され、ガラス乾板とネガフィルムの一部の寄贈を受けました。長く放置されていたために土埃や湿気により、きびしい状態のものも少なくありませんが、現状記録を取りながら、まず慎重に埃を払い、一枚一枚を中性紙に挟み、専用の収納ケースに収めるとともに目録の作成を進めています。その点数は10,000枚を上回るものと思われる。



1枚ごとに整理番号を付し、内容を確認し、文字情報などを記録して目録を作成しています。

昭和30年代の前半はガラス乾板が使用され、それ以降はネガフィルムに移行していく時代でした。久保田写真館に残されたガラス乾板とネガフィルムから昭和20年代後半から30年代にかけての飯田・下伊那の様子がよみがえってきます。

写真1は旭松凍豆腐株式会社（現旭松食品）の凍豆腐が第三次南極観測隊の越冬食糧として採用され、1958（昭和33）年10月8日に晴海埠頭にて南極観測船「宗谷」に製品の積み込みをしている様子を撮影した写真の複製と思われる。同社の社史には第四次（1959年）の写真が掲載され、「当社の凍豆腐は日本南極観測隊とともに初めて赤道を越えて南極に渡り、凍豆腐業界にとっても



▲写真1 人物と車から「宗谷」の大きさがわかります。（名刺判 傷あり 1958年 整理番号8-4-5）

大きな快挙」と記述されています。この写真を入手した同社が久保田写真館に複製を依頼したと思われる。

写真2は、撮影年は1957（昭和32）年と推定されますが、場所は不明です。りんご園での袋掛け作業の合間に撮影されたものと思われます。果樹園の作業が若い女性たちによって担われていたことがよくわかります。また木製の脚立、もんぺ姿の女性たち、りんご樹の仕立て方からも当時を知ることができます。

なお、この整理作業は文化庁による文化芸術振興に係わる飯田市文化遺産継承活用事業の一つとして行われています。また歴史研究所では史料の性格を考慮してプライバシーの保護に十分配慮して、慎重に整理を進めています。



▲写真2 空缶の留め金入れと木箱の袋入れを使用しています。（キャビネ判 1957年 整理番号1-1-23）

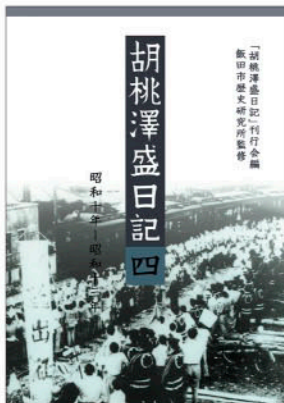
くるみざわ もり 「胡桃澤盛日記」第4巻 最新刊

「胡桃澤盛日記」刊行会編／飯田市歴史研究所監修

戦時中、旧河野村（現豊丘村）の村長を勤めた胡桃澤盛（1905-1946）の日記です。

第4巻は昭和10年から13年までを収録しました。村会議員となった胡桃澤は村政に力を入れていくとともに、実行組合を率いて村の経済更生運動に努めていきます。昭和12年には村議に再選され、家の普請も行ない、一族はもちろん、地域のなかでも胡桃澤は有力者として輿望を担う存在になっていきました。

しかし、昭和12年7月、日中戦争が始まると、村の風景は一変します。胡桃澤は次々に召集され出征する人々の見送りに、また武運長久祈願や村葬に、奔走します。戦時下へとなだれをうって変貌していく河野村の姿を、日記の記述はいまに伝えています。



A5判・459頁・並製

**全6巻セットの
予約販売です**
(各巻3150円＋送料)

2012年度飯田歴研賞受賞

奨励賞 著書

私の女学生の頃 ～女学校・高等学校時代～



飯田女性史研究会のみなさん

「女学生の学校生活」について戦時から現在に至るあゆみを、聞き取りと自分史によって記録したものです。様々な時代に生きた女学生時代を、同じ頃の日本の歴史、世界の歴史とも照らし合わせ

て、先人の努力に学び、今をどう生きるか学び取る良い機会となりました。

飯田女性史研究会は10名ほどの会員で、飯田下伊那地方の地域・職場・家庭を支えてきた無名の女性達の生活に焦点を当て、聞き取りや文献を基に調査、記録している会です。このような賞を頂き、会員一同感謝すると共に今後の活動の大きな力にしていきたいと思ひます。



リレーエッセイ

第10回飯田市地域史研究集会 「地域と歩む教育の歴史」から学んだこと

第10回飯田市地域史研究集会は、飯田・下伊那の教育のこれまでとこれからを考える上で、たいへん充実した内容の集会になっていたと思います。以下、内容に即して簡単に感想を記しておきます。

一日目の佐藤学さん（学習院大学）の記念講演「地域と学校で創る学びの共同体＝地域と教育の歴史的省察から」は、歴史の中に埋もれている地域の人びとの教育にかけた願いや事実を掘り起こすことの重要性を説くもので、今次集会のテーマを深める上で示唆に満ちたものでした。それに続く木下陸奥さんの「地域の教育的土壌の醸成」の講演は、佐藤さんの講演内容を引き継ぎ、具体的な地域を取り上げて教育の共同性を検証する内容になっていたと思います。竜丘小学校を舞台に大正期に展開した教育実践を地域の青年会運動、大正期の自由教育運動と結びつけてとらえ直し、教育の公共性の広がりや深まりを歴史的に明らかにしてくれるものでした。私は、ふたつの講演は、地域の教育の埋もれていた可能性を掘り起こし、未来につなごうとするものだと思ひました。今後の学習運動、研究運動の新しい視点を用意してくれるものとなったのではないのでしょうか。

二日目午前の報告も多くの参加者に新しい知見、発見をもたらしたものだと思ひます。飯田尋常高等小学校で秋期入学という制度があったのも驚きでしたし（多和田真理子さんの報告）、飯田東中学校に貴重な学校史料がたくさん残されているということも知ることができました（田中清一さんの報告）。富田泰啓さんのコメントからは、地域の学校が拠点となって伝統文化を学び伝えてきたこと、またそのことを通して子どもたちが成長してきたことが理解できました。

午後の研究報告もまた地域の生活や文化と教育の営みが深く関わっていることを教えてくれるものでした。上郷小学校の伊藤豊さんと学級の児童のみなさんの報告からは、地域の学習を組織することが地域社会の文化継承にとっても子どもたちの成長にとってもどんなに大切なことであるか、ということを考えさせられましたし、木下和子さんの報告からは、あらためて中学校と地域社会の密接なつながりについて考えさせられました。また、竹村雄次さんの報告からは、先人たちによる地域づくり＝人づくりの歴史を掘り起こすことの重要性を教えられました。

会場には大正時代の子どもの描いた自由画の作品が数多く展示されました。竜丘小学校に残されていた自由画の作品群は、原画の保存状態がきわめて良く、当時の子どもたちの目に映った飯田・下伊那の生活の様子が窺えるとともに、自由で闊達な作品を生み出した大正期自由画運動の歴史的な意義についてあらためて考えさせられることになりました。

今回の研究集会は内容のある充実した集会になったと思ひますが、飯田・下伊那の教育の歴史の全体像を明らかにするためにはまだまだやらなくてはならないことがたくさんあると思ひます。飯田・下伊那の地域には実に豊かな教育の歴史が積み重なっています。それらのすべてがこの地域のいまの教育を支えているといってもよいのでしょうか。私にとっては、歴史をふまえて地域の教育のこれからを考えることの大切さをあらためて感じることができた集会となりました。



顧問研究員

田嶋 一

(國學院大學文学部教授)

上郷有線放送のデジタルデータ化を進めています

旧上郷町では、農業協同組合が有線放送を開設し、町のほとんどの世帯で放送を聴取していました。有線放送は、農業や生活の情報、行政の広報など、町のさまざまなニュースを住民の声とともに伝えてきましたので、今後時間がたつほどに、地域の歴史を記録している重要な歴史資料になっていくといえます。平成5年、上郷町が飯田市と合併し、上郷有線放送が閉局となつてのち、有線放送のテープは飯田市の図書館に寄贈され、平成22年に歴史研究所に移管されました。テープはオープンリールが962本、ビデオテープが29本、カセットテープが190本、8mビデオテープが24本と膨大なものですが、平成21年から22年にかけて、上郷の伊藤昭雄さん夫妻が整理を行ない、現在は目録によってその内容を知ることができます。



しかし、オープンリールの再生機器は次第に手に入りにくくなっており、他のテープについても将来的に再生機器が生産されなくなる可能性があります。また磁気テープのため時間とともに劣化が進み、やがて再生できなくなることも懸念されています。そこで歴史研究所では現在、コミュニティ助成事業の地域資源活用助成事業として助成をうけ、有線放送テープのデジタルデータ化に取り組んでいます。デジタルデータに媒体変換を行なうことで、再生と検索を容易にし、また長く保存することができるようになります。

歴史研究所に移管されたテープは昭和34年のものからあります。まだ上郷村だった時代のものです。三六災害や高度成長の時代をへて移り変わってきた地域の記憶がこのテープには記録されています。例えば昭和43年の「マイク訪問(1)」というテープには次の内容が収録されています。

表①春を呼ぶ福ダルマ作りの小林さん 飯伊有効企画(この人とその周辺)S43.12.9

②伊那節の師範免状を受けた渡辺さん S43.12.12

裏①師走の村内から三題 中央道・トマト・保育園のもちつき S43.12.25

②4HC発表大会入賞の田中君 (インタビュー 吉川)S44.2.8

このように、地域のさまざまな情報を人々の声とともに記録に残しており、なかには現在では亡くなられた方たちの声や姿も残っています。三六災害や中央道開通など歴史的に節目にあたる出来事についての同時代の声を聴くこともできます。是非みなさんに活用していただければと思います。



※宝くじ「コミュニティ助成事業」の助成により行われています。

飯田アカデミア2012 第67講座

12月15日(土) 第1コマ(13:00~14:30)
第2コマ(15:00~16:30)

飢饉のプロセスと非常態

江戸時代、仙台藩ではさまざまな災害が発生していますが、そのなかでも冷害型凶作が起因となった飢饉によって最も多くの人命が奪われました。とくに天明の飢饉と天保の飢饉の惨状が飢饉記録等によって今日に伝えられています。当時の飢饉下の暮らしとはどのようなものであったのか、そのプロセスと非常の様相について具体的にとりあげます。

飢饉の市場経済、および飢饉対策・復興

飢饉のメカニズムについて、人災的要因についてとりあげます。江戸時代、東北地方は大都市向けの食料供給地として位置づけられていました。米・大豆の換金化は衣食住全般にわたる消費生活の向上をもたらしましたが、飢饉へのリスクを高めてしまいました。飢饉のダメージからの復興や備荒貯蓄の動きについてもとりあげます。

講師 ● **菊池 勇夫**
(宮城学院女子大学 教授)

資料代 ● **500円**
会場 ● **飯田市公民館**
(飯田市吾妻町139)

定例研究会

開催日:2012年12月7日(金)

テーマ:「飯田・下伊那の農村舞台」

報告者:金澤 雄記(客員研究員)

時間:14:00~16:00

場所:歴史研究所 研修室

公開歴史講座

毎月の定例研究会を兼ね、いつもとは違った世界史の視点から近世・近代を学びます。高校生から一般の方まで、広く市民の皆様のご参加をお待ちしております。

新しい世界史を求めて(全2回)

講師 **小川 幸司**さん
(飯田高校教諭)

1966年茅野市生まれ。
東京大学文学部西洋史学科卒業。
NHK文化センター講師(兼任)。



会場 上郷公民館103会議室

2013年1月19日(土) 13:30~15:30

『近世』という時代を描く

コロンブスは本当に「世界の一体化」をもたらしたのか。新たな視点から日本史そのものを見つめ直します。

2013年2月16日(土) 13:30~15:30

「飯田・下伊那の『近代』 世界史から見つめる」

新しい世界史像のなかで飯田・下伊那の地域の歴史を見つめます。近代産業・満蒙開拓の歴史を位置づけてみます。

地域史講座

開催日:2013年2月2日(土)

時間:9:00~11:00

羽場の百姓と山林資源

1756(宝暦6)年、上飯田村羽場の人びとは惣九郎の持っていた山の権利を買いました。現在の羽場曙友会生産森林組合が生まれるきっかけとなったこの出来事が、上飯田村の歴史にとってどんな意味を持っていたかを学びます。

講師:多和田 雅保(調査研究員)

場所:羽場公民館
(飯田市羽場町2-14-9 TEL.23-9749)

共催:羽場公民館

歴研セミナー

近世史ゼミ

■開催日
12月4日・18日
1月15日

■時間
19:00~20:40

■担当
竹ノ内 研究員

■場所
歴史研究所 研修室

近現代史ゼミ

■開催日
12月8日
1月12日・26日

■時間
17:00~18:40

■担当
田中 調査研究員

■場所
歴史研究所 研修室

古代史ゼミ

■開催日
12月20日
1月24日

■時間
19:00~20:40

■担当
北村 研究員

■場所
歴史研究所 研修室

満州移民研究ゼミ

■開催日
第19回:12月1日
第20回:1月12日

■時間
10:00~11:40

■担当
本島 調査研究員

■場所
上郷公民館103号室

建築史ワークショップ

■開催日時
※詳細は歴史研究所
までお問い合わせ
ください。

■担当
金澤 客員研究員

■場所
歴史研究所 研修室

歴史研究所の催事スケジュール

2012年 12月

2013年 1月

NL61発行/満州移民研究ゼミ	土	1		火
	日	2		水
	月	3		木
近世史ゼミ	火	4		金
	水	5		土
	木	6		日
定例研究会	金	7		月
近現代史ゼミ	土	8		火
	日	9		水
	月	10		木
	火	11		金
	水	12	満州移民研究ゼミ/近現代史ゼミ	土
	木	13		日
	金	14		月
67thアカデミア	土	15	近世史ゼミ	火
	日	16		水
	月	17		木
近世史ゼミ	火	18		金
	水	19	公開歴史講座①	土
古代史ゼミ	木	20		日
	金	21		月
	土	22		火
	日	23		水
	月	24	古代史ゼミ	木
	火	25		金
	水	26	近現代史ゼミ	土
	木	27		日
	金	28		月
	土	29		火
	日	30		水
	月	31		木

開所時間:午前9時~午後5時

休 所 日:日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日

休所日

開所日

歴研日誌

10月

- 2日… 歴研ニュース60号発行
- 2日… 歴史に学び地域をたずねる会 座光寺地区史料整理(麻績史料館)
- 2日… 近世史ゼミ「中馬申合の事」
- 4日… 出前講座 上郷小学校6年生「江戸時代の農村」
(伊坪調査研究員)(上郷小学校)
- 5日… 建築史ワークショップ「大平宿見学会」
- 6日… 満州移民研究ゼミ 17回「宮下功『満洲紀行』をよむ⑩」
- 6日… 古代史ゼミ「座光寺地区フィールドワーク①」
- 13日… 近現代史ゼミ「上飯田村の近代・農村の暮らし」
- 16日… 近世史ゼミ「寛政年間の藩政改革」
- 17日… 松尾久井 木下家史料調査
- 17日… 出前講座 上久堅を学ぶ会「江戸時代上久堅の凶作と飢饉」
(伊坪調査研究員)(上久堅公民館)
- 18日… 歴史に学び地域をたずねる会 座光寺地区史料整理(麻績史料館)
- 20日… 茅野市博物館協議会視察受入れ
- 20日… 定例研究会「旧南信濃村飯島発電所・隧道工事労働者と
地元民の交流」(原市民研究員)
- 21日… 出前講座「大平街道を歩く」(竹ノ内研究員)(羽場公民館)
- 24-26日 職場体験学習受入れ(竜峡中学校2年生)
- 24日… 出前講座 古文書学習会⑤(伊坪調査研究員)(阿智村コミュニティ館)
- 25日… 古代史ゼミ「座光寺縁起の虚実⑥」
- 25日… 建築史ワークショップ「市役所裏発掘現場・大平宿」
- 27-28日 アカデミア第66講座「イネとクラをめぐる古代史」
(山中敏史 奈良文化財研究所名誉研究員)(座光寺公民館)
- 27日… 近現代史ゼミ「大正14年の南信新聞と胡桃澤盛日記②」
- 30日… 職場体験学習受入れ(松川高校1年生)

11月

- 1日… 今宮町 松岡屋醸造所資料調査(本島調査研究員・田中調査研究員)
- 3日… 出前講座「戦時ポスターの時代と丸山小学校」
(本島調査研究員)(羽場公民館)
- 3日… 古建築アートセッションin下伊那
「犬塚家・下條村合原皇大神宮舞台」(金澤客員研究員)
- 6日… 歴史に学び地域をたずねる会 座光寺地区史料整理(麻績史料館)
- 6日… 近世史ゼミ「御用水の松川取水願い」
- 10日… 中川村歴史民俗資料館特別展 講演「上伊那の満州移民」
(本島調査研究員)(中川村歴史民俗資料館)
- 10日… 出前講座 橋南地区文化祭文化講座「江戸時代 飯田町の大火」
(伊坪調査研究員)(橋南公民館)
- 10日… 満州移民研究ゼミ 18回「宮下功『満洲紀行』をよむ⑪」
- 15日… 古代史ゼミ「宴、設くべし ~正倉院文書を読む~」
- 16-18日 旧南信濃村役場文書調査合宿(南信濃基幹集落センター)
- 17日… 出前講座 鼎歴史を学ぶ会「新井家文書講座③」
(竹ノ内研究員)(鼎公民館)
- 17日… 建築史ワークショップ「景観見学会」
- 17日… 近現代史ゼミ「大正14年の南信新聞と胡桃澤盛日記③」
- 20日… 歴史に学び地域をたずねる会 座光寺地区史料整理(麻績史料館)
- 20日… 近世史ゼミ「小野川村村役人取極連判帳」
- 21日… 出前講座 岐阜県海津市高齢者学級「高須藩と観音寺」
(伊坪調査研究員)(山本竹佐 観音寺)
- 21日… 出前講座 古文書学習会⑥(伊坪調査研究員)(阿智村コミュニティ館)
- 24日… 定例研究会「明治・大正期 飯田藩の行財政」(田中調査研究員)
- 24日… 建築史ワークショップ「犬塚家の格子窓製作」
- 24日… 近現代史ゼミ「大正14年の南信新聞と胡桃澤盛日記④」
- 27日… 平和資料収集委員会(本島調査研究員)(教育委員会)
- 29日… 古代史ゼミ「仏教公伝①」